

## 調査の要領

(業種別調査企業数と回答数の内訳)

	対象企業	回答数
製造業	74	69
卸売業	27	25
小売業	105	102
飲食業	31	30
サービス業	62	61
運輸業	13	13
建設業	64	61
不動産業	23	22
合計	399	383

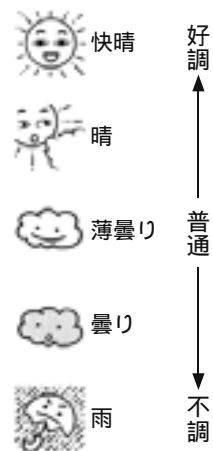
調査時期 6月上旬  
 調査内容 平成23年4月～6月の景況  
 平成23年7月～9月の見通し  
 調査方法 当金庫職員による聞き取り調査  
 調査対象 当金庫の取引先  
 回答数 383先(回答率95.99%)  
 (回収不能 16先)

お忙しい中、ご協力いただきまして大変ありがとうございました。お問い合わせは最寄りの営業店、または企画部《(019)623-2221》までお願いします。  
 次回調査にも、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

## 景況天気図

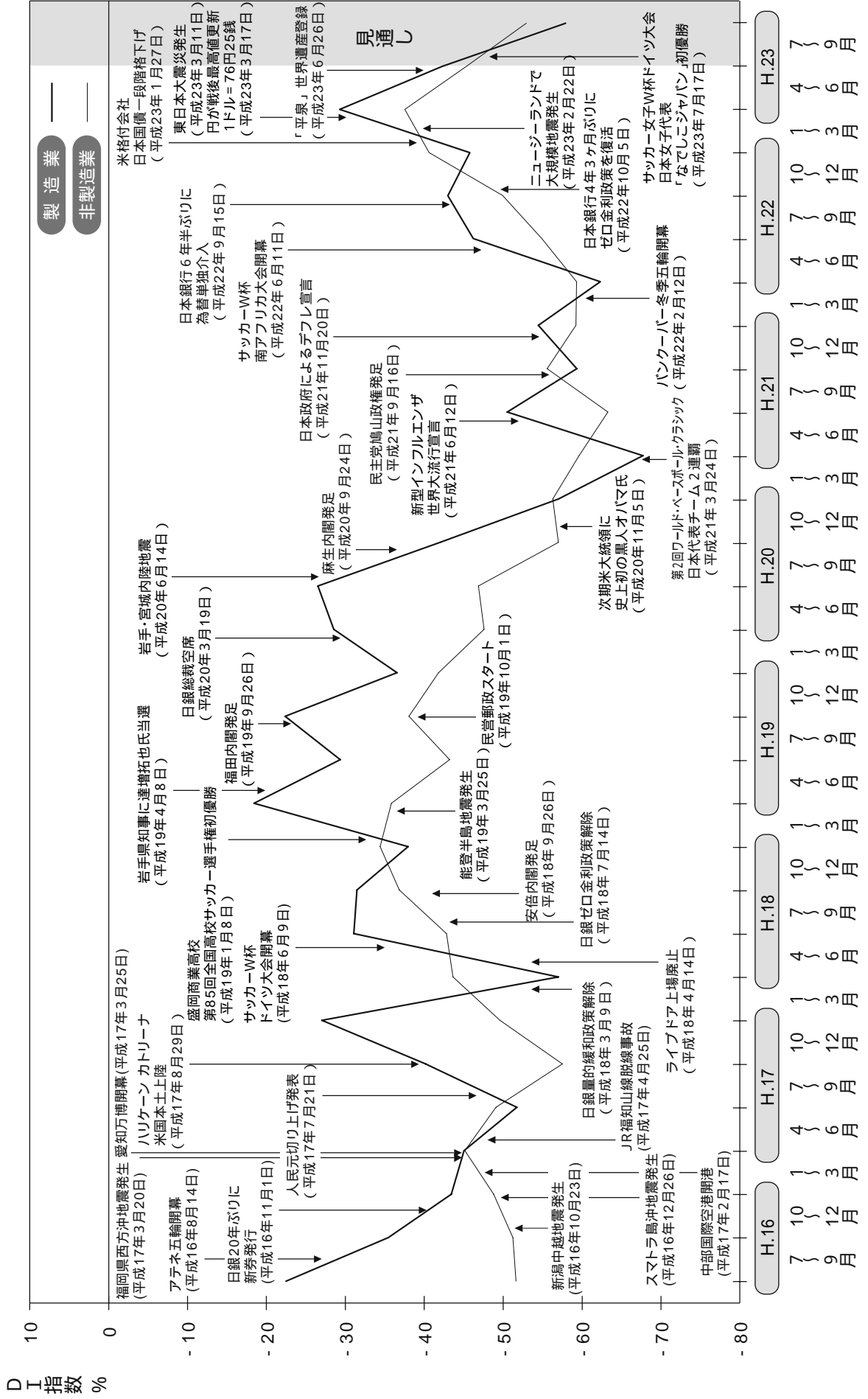
(景況調査の概況)

	平成23年1～3月期	平成23年4～6月期	平成23年7～9月期 見通し
全業種 (総合)			
製造業			
卸売業			
小売業			
飲食業			
サービス業			
運輸業			
建設業			
不動産業			



※この天気図は景況指数を総合的に判断して作成したものです。

# 製造業と非製造業の業況判断DI (季節調整済)



# 景況総合判断指数(DI)

平成23年 4 ~ 6月

前期 *DI	当期(平成23年1月~3月期に比べて)				景況	見通し(平成23年7月~9月期)			
	増加	普通	減少	*DI		増加	普通	減少	*DI
-38	11	32	57	-45	業況	5	37	58	-54
-21	23	26	51	-27	売上高	17	39	44	-30
-28	18	30	52	-33	収益	13	43	44	-33
-13	9	68	23	-15	販売請負価格	6	70	24	-19
22	35	57	8	27	材料仕入価格	28	63	9	17
-4	9	72	19	-10	在庫	9	74	17	-6
-31	5	56	39	-37	資金繰り	5	58	37	-33
-11	11	69	20	-8	残業時間	5	77	18	-12
-6	8	76	16	-12	人手	7	80	13	-5
-14	2	80	18	-15	設備の状況	3	81	16	-15

\*DI(Diffusion Index)は、増加企業割合から減少企業割合を差し引き、不変(普通)部分を除いて景況を判断しようとするものです。

\*「季節調整済DI」は、1年を周期として季節的な変動を繰り返すDIから、季節の変動を除去した動向指数です。

増加・普通・減少は右のように置き換えます。

	増加	普通	減少
業況	良い	普通	悪い
価格	上昇	変わらず	下降
在庫・人手・設備の状況	過剰	適正	不足
資金繰り	楽	変わらず	苦しい

# 業種別業況動向

(景況調査の概況)

	平成23年1~3月期		平成23年4~6月期		平成23年7~9月期	
	実績	前期予想	実績	前期予想	見通し	
全業種(総合)	-37	-50	-45	-40	-54	—
製造業	-31	-46	-43	-30	-58	—
卸売業	-18	-42	-48	-34	-41	—
小売業	-36	-51	-46	-38	-53	—
飲食業	-51	-66	-52	-62	-68	—
サービス業	-32	-46	-43	-38	-57	—
運輸業	-68	-52	-53	-37	-56	—
建設業	-44	-54	-41	-45	-50	—
不動産業	-36	-34	-45	-45	-40	—

\*DIは季節調整済 \*それぞれの右欄は前期に予想したDIを示す

### 概況

今期の業況判断DI値は-45となりました。震災の影響を織り込んでいない前期の水準(-37)に比べ8ポイント、前期予想(-40)より5ポイント悪化しました。

内陸部のサプライチェーンはほぼ復旧し、ひとりの消費者の自粛ムードも一段落したと見られ、徐々にではありますが震災以前の姿を取り戻しつつある状況です。しかしながら、震災の傷跡は深く、未だに各方面に影響を及ぼしており、足元の景況感には停滞感が広がっているように思われます。

来期については、電力問題等今後に不透明感が強く、業況判断DI値の来期見通しは-54となり引続き9ポイント悪化するものと予想しています。

### 業況判断

平成22年6月から4期連続で改善していた業況は、震災で一変し全体では-45と震災の影響を織り込んでいない前期より8ポイント悪化となりました。

来期の見通しについては、製造業は15ポイント、非製造業では7ポイントそれぞれ悪化すると予想しています。

業種別に見ると、製造業は震災による資材不足の影響から、今期木材・木製品製造業、窯業・土石製品製造業が大幅に改善したものの、出版・印刷業、家具・装備品製造業の大幅悪化により、12ポイント悪化しました。来期の見通しについては、木材・木製品製造業を除く他の業種が横ばい・悪化すると予想し、全体で15ポイント悪化すると予想をしています。

非製造業においては、運輸業、建設業は復興工事等の影響もあり改善したものの、他の業種では悪化し、全体では8ポイント悪化しました。また、来期の見通しについては、卸売業、不動産業は改善するものの、その他の業種で悪化を予想。全体では7ポイント後退すると予想しています。

### 売上高判断

◆売上高は、全体で-27と6ポイント悪化し、減収となりました。

◆業種別では、唯一建設業が22ポイント改善したのに対して、その他の業種は、運輸業が27ポイント、卸売業が26ポイント、飲食業が23ポイント、不動産業が16ポイント、サービス業が8ポイント、製造業・小売業が7ポイント、悪化しました。

◆来期の見通しは、-30と3ポイント悪化を予想しています。卸売業が19ポイント、飲食業が10ポイント、小売業が5ポイントの改善を予想しており、これに対して、建設業が19ポイント、製造業が9ポイント、運輸業が8ポイント、サービス業が7ポイント、不動産業が5ポイント後退を予想しています。

### 収益判断

◆収益判断は、全体で-33と5ポイント悪化し、減益となりました。

◆来期の見通しは、-33と横ばいの推移を予想しています。業種別では、飲食業で14ポイント、卸売業で11ポイント、小売業で7ポイント、運輸業で4ポイント、不動産業で4ポイントの改善を予想しており、これに対して、建設業で11ポイント、製造業で7ポイント、サービス業で2ポイント後退を予想しています。

### 価格判断

◆販売価格・仕入価格については、販売価格が-15と2ポイント低下し、仕入価格は27と5ポイント上昇しました。

◆来期の見通しは、販売価格は-19と4ポイント低下、仕入価格は17と10ポイント低下を予想しています。

### 在庫判断

◆在庫は、今期-10と6ポイント低下し、不足傾向を強めました。

◆来期の見通しは、-6と4ポイント上昇し、増加傾向に転じると予想をしています。

### 資金繰り判断

◆資金繰りは、今期-36と5ポイント悪化となりました。

◆業種別では、サービス業と不動産業でそれぞれ4ポイント、卸売業で2ポイント改善したのに対し、製造業で16ポイント、建設業で9ポイント、飲食業で7ポイント、運輸業で6ポイント、小売業で2ポイント後退しました。

◆来期の見通しは、-33と3ポイント改善する予想となっています。

### 雇用判断

◆人手は、今期-12と6ポイント不足幅が拡大しました。来期は-5と7ポイント不足幅が減少する予想となっています。

◆残業時間は、今期-8と3ポイント増加しました。来期は-12と4ポイント減少する動きと予想しています。

### 設備状況判断等

◆設備状況は、-15と1ポイント不足を強める動きとなりました。

◆業種別では、運輸業で17ポイント、製造業で8ポイント、卸売業で2ポイント不足感が弱まる動きとなりました。これに対して、飲食業で8ポイント、小売業と建設業でそれぞれ5ポイント、サービス業で1ポイント不足感が強まる動きとなりました。

◆設備投資実績は、全体で車両を中心に21%の実施となりました。来期は、車両を中心に18%の先が設備投資を予定しています。

◆借入金の状況は、前期と同様、借入実施の割合が5割を超えた業種はなく、全体では横ばいに推移し、24%の先が実施となりました。来期の見通しも前期と同じく横ばいに推移し18%の実施と予想しています。借入の難易度は「難しい」は、前期と同様17%となりました。

### 経営上の問題点

	10~12月期	1~3月期	4~6月期
売上の停滞・減少	62%	62%	65%
同業者間の競争の激化	40%	51%	33%
利幅の縮小	36%	40%	25%

「売上の停滞・減少」が3ポイント上昇となり、「同業者間の競争の激化」が18ポイント、「利幅の縮小」が15ポイント低下しました。

### 景況の推移

\* 前期比：DI・季節調整済

